<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="3">刑事訴訟法①</td></tr>
<tr><td>担当者名</td><td colspan="3">前田裕司</td></tr>
<tr><td>開講年度学期
学科・年次</td><td colspan="3">2024 年度
大学進学科・３年次</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>2 単位</td><td>時間数</td><td>４０</td></tr>
<tr><td>授業形式</td><td colspan="3">講義</td></tr>
<tr><td>授業の概要と方法</td><td colspan="3">刑訴法判例百選に基づく事例検討を行って、刑事訴訟実務でどのようなことが争点となるのか、争点となる理由と争点に対する考え方を学ぶ。事例検討にあたっては、講師の刑事弁護人として長年の経験及び実務と理論の架橋と位置付けられた法科大学院教員 10 年の経験を生かして指導し、受講生の刑事実務の理解を深めるとともに、刑事訴訟法全体の知識の習得を目指す。</td></tr>
<tr><td>授業の到達目標</td><td colspan="3">⑴　刑事訴訟の実務への理解を深める。
⑵　刑事訴訟での実務上の争点が生じる理由とこれに対する自己の意見を論じることができるようにする。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="2">01～04　捜査の端緒と任意捜査
05～08　強制捜査
09～12　被疑者の権利
13～14　公訴の提起と訴因</td><td>15～16　公判手続
17～22　証拠
23～30　復習
論点の整理</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法</td><td colspan="3">近畿大学の科目終末試験の成績及び授業における裁判事例報告でのまとめ方と自己の意見等により評価する。</td></tr>
<tr><td>授業外で行うべき学修</td><td colspan="3">日々の刑事裁判関係のニュースをチェックする。
刑訴法判例百選の各事例に目を通しておく。</td></tr>
<tr><td>使用テキスト</td><td colspan="3">近畿大学テキスト　刑事訴訟法「改定版」山本正樹</td></tr>
<tr><td>参考書（参考資料等）</td><td colspan="3">刑事訴訟法判例百選【第 10 版】　井上正仁、大澤裕、川出敏裕編
判例百選をテキストと同様に使用する</td></tr>
<tr><td>その他（受講生への要望など）</td><td colspan="3">事例を通じて、どのような争点があるのかを学び、自身の結論と結論に至った理由をしっかり考えることが重要である。</td></tr>
</table>